

N o	項目	委員会	意見	当日の回答	対応状況	現状及び今後の対応
1	関係団体とのデータ共有について	第 5 回	・県が関連する資料館や美術館等のデータ管理・整理はどのような状況か。	・関連する団体のデータベースにある情報が公開可能なものか含め、今年度から来年度にかけて各館と調整を行っていく。	△	・令和 6 年度はまず県立施設を対象とした、各館のデータ整備状況の把握及び公開に向けた協議を歴史文化財課及び県史編さん室で協力し進めていく。 ・また同時に令和 7 年度以降は、把握・整理された資料のデジタル化及び展開の仕方について検討していく。
2	クラウドサービスを活用したデータ共有について	第 7 回	① アップされたデータが見れない状況が多々あるため、対応・改善策を教えてほしい。 ② 全部会共通管理が可能となるフォルダを作成してほしい。 ③ 委員間のみでなく、外部関係者と共有可能にできないか。 ④ 配付されたGmailアドレスと県職員のメールアドレスとで、県史関連のやりとりを一元化できないか。	① おそらくデータの容量が問題であると思われる。対応策として、PDFデータを分割することが挙げられるが、各パソコンのスペックや通信環境の問題である可能性も高いため、事務局にて原因を確認させていただく。 ④ Gmailのやりとりについては、配付されたアカウント同士のやりとりに限定されており、県職員メールアドレス（pref.kochi.lg.jp）とやりとりをすることはできない。	△	① 100MB以上のPDFデータを閲覧する際に、プレビューが表示されないことを確認。各パソコンのスペックや通信環境に左右される部分もあるが、PDFを分割し共有することを勧める。 ② 7月より全部会共通フォルダの運用を開始。 ③ 高知県の情報セキュリティポリシーを踏まえたうえでどのように情報共有を行うか検討中。
3	県史の判型・段組について	第 7 回	・資料編について、日記や記録類を掲載することも検討されており、カラー写真の対応について伺いたい。 ・DVDなどの附属資料について検討しており、相談させていただきたい。	・全体の刊行数や各部会の掲載資料や事情等も勘案して、調整させていただき、改めてご報告させていただく。	△	・第 8 回編集委員会にて判型・段組について事務局案を提示済み。なお判型について複数の印刷製本会社と協議中。カラー写真等についても全体の枠組みの中で考える。
4	海外資料調査について	第 7 回	・必要な場合は海外資料調査が可能か。	・入念な事前準備、予算の確保が必要であり、来年度直ちに海外資料調査をすることは困難である。 ・資料の所在、調査の必要性を確認後、来年度以降予算要求していきたいと思う。	△	・まずは県内・国内に残されている歴史資料調査を優先することとし、各部会において海外での資料調査が必要と判断した際には事務局へ相談いただきたい。 ・相談を受け、資料の所在や必要性を事務局にて改めて検討し、次年度以降予算要求するか否か判断することとしたい。 (令和 7 年度も特段要求なし)
5	資料の所在確認について	第 8 ・ 9 回	・資料の所在や情報についての情報共有をお願いしたい ・所在の調査について全体で取り組めるような体制を事務局主導で構築できないか ・ <u>所在調査の優先順位について、資料編の刊行が近いこともあり、近世が第一優先であることを理解していただきたい。</u> <u>また、他の部会の所在調査の際にも、近世の文書があるか等確認をしていただきたい。</u>	・所在調査について34市町村を一巡し情報を集約、事務局の各部会担当同士で情報共有を行っている。 ・一方で合併済みの市町村については、追加調査が必要となっている	△	・合併前の旧市町村単位での調査を、今年度室戸・香美地域で行い、今後も中土佐地域へ調査に行く予定であり、順次行っていく。 ・すでに編集作業にとりかからないといけない部会もあり、人員と予算に制限がある中、一定優先順位をつけたうえで、各専門部会の意見をふまえながら所在調査を進めていく。また、所在調査の際に他部会の資料についても確認し、情報共有を行う。
6	高知県史の広報について	第 7 ・ 8 回	・県史編さんに関係する資料や文献の所在情報等について、情報提供の呼びかけをHPに掲載できないか。 ・「高知県史」と検索して出てくるような工夫及びFacebook等SNSを利用した発信を検討いただきたい。	・情報提供の呼びかけと連絡先についてHPに掲載するようにする。 ・順次HPの拡充を行っていく。	△	・資料の所在情報については、市町村訪問時に担当職員に毎回提供依頼を行っており、HPにも掲載を始めている。その結果、情報提供も実際にあり、調査に行った事例もあり。 ・SNSについてはR6から「とさぶし」が1月に5回Instagramを発信する予定。（県史情報も含む）その他、 <u>令和 6 年度末より毎年の発刊を予定している「（仮称）高知県史へのいざない」についてもFacebookにて月 1 回、順次調査の様子等の紹介を始めている。</u> ・ <u>また、県史編さん室の業務報告として「（仮称）高知県史へのいざない」やHPにて引き続き県民向けに公開していく予定。</u>
7	県史編さん室の部屋・動線について	第 8 ・ 9 回	・スペースを奪われてしまうため、県史編さん室の部屋について再度見直しをできないか。 ・預かった資料の管理を、文化財として厳密に行っていただきたい。 ・ <u>執務室に関して移転の計画等はあるか</u>	・県の組織全体の運営にかかわることであり、見直しや変更等は難しい。 ・撮影スペースについては職員の目配せができる場所で考えている。 ・ <u>移転の可能性もあり、更なる環境の改善をできるよう準備・計画等の検討を進めている。</u>	○	・執務スペースは国民文化祭課と共有しているが、収蔵スペース・撮影スペースは別途設けて運営している。 ・国民文化祭課にも入室時の粘着マット等、資料の劣化に繋がる虫の侵入等を防ぐことに協力いただいており、動線についても資料の紛失・破損等につながらないよう考慮している。 ・現在、執務スペースは総務部及び国民文化祭課と協議を続けており、 <u>令和 7 年度以降編さん事業に必要な面積を確保できる予定である。</u>
8	資料編の副題について	第 8 ・ 9 回	・資料編が複数巻ある部会の背表紙の表記について、番号をふるのか・その巻のテーマを表記するのか等、考えていく必要がある。	・資料編を複数巻出す部会のイメージを出していただき、そのうえで検討し方向性を決めていきたい。	△	・ <u>本委員会(第10回編集委員会)での協議事項</u>
9	資料調査の成果報告について	第 9 回	・調査の成果報告会について編集作業と並行での実施については負担も大きく、規模感を考えた具体的な計画が必要。 ・刊行の翌年に、成果に基づいた講演会の開催を基本スタンズとするのがよいのではないか。	・今後も具体的な案を出しながら検討していきたい。 ・各部会からも成果報告の場の要望について出していいただければと思う。	△	・令和 6 年度は近代部会が安芸市と共催の形でシンポジウムを開催予定。また、意見も受けて令和7年度以降の実施形式等を検討中。

『高知県史』の掲載内容に関する主なご要望

資料 2

日時	項目	概要	要望者	関係する主な部会（予定）									対応の方向性
				古代 中世	近世	近代	現代	考古	民俗	文化財	自然		
R3. 11	よさこい祭り	よさこいは高知の特色ある祭りであり、調査をしてほしい	県議会議員				○		○			・県内の祭礼について、各地域にて調査中。取扱予定の伝統文芸等の項目と性質が異なるかと思うが、祭りは欠かせない項目。今後、部会にて取扱について、検討を進めていく。（民俗）	
	移民関係 (旧満州, 南米)	旧満州からの引揚げ、また南米移民に関して調査をしてほしい				○	○					・前回県史にて取り上げた項目。部会内で協議し、担当委員を選任。具体的な調査については今後検討予定。（近代） ・令和5年度に満州移民について旧西土佐村にて、令和6年度は南米移民関係について海外資料に関する資料所蔵施設に聞き取り調査を実施。（現代）	
R4. 4	南海トラフ地震	新たな県史では、南海トラフ地震など震災関係は、どのように取り上げられるのか	編さん委員					○				○各時代の専門部会において、南海トラフ地震など災害の歴史を取り上げる。 ・本編の構成案で、古代における地震など自然災害を取り上げている。（古代・中世） ・資料編の構成案で災害関係を取り上げており、資料調査を進めていく。（近世、近代） ・災害単体ではなく「くらし」との関連の中で問題を検討していく。（現代） ・物部町の久保高井の山崩れ伝説をはじめ、災害にまつわる伝承の残る地域での聞き取り調査を行っていく。（民俗）	
R4. 7	仁淀川水系の 水害	日高地区の水害の歴史について取り上げてほしい（鎌田堰の影響による洪水発生、村に明治以降の治水関係資料あり）	日高村		○	○	○	○			○	・県内の古代寺院については、古代・中世、考古及び文化財部会において、地元自治体と連携しながら調査地の検討・部会協議を進めていく予定。（事務局）	
R4. 9	大寺廃寺	高知市春野の大寺廃寺について、本県の古代史の解明が期待できるため、発掘等の調査をしてほしい	春野文化財 友の会	○				○			○	・県内の古代寺院については、古代・中世、考古及び文化財部会において、地元自治体と連携しながら調査地の検討・部会協議を進めていく予定。（事務局）	
R4. 10	ビキニ環礁被曝	新たな県史編さんにあたり、被災の実態を県としても調査・記録し、後世に広く伝えるよう記載してほしい	県議会議員				○					・ビキニ被災に限らず、重要な戦後の歴史を取り上げていく。（事務局） ・令和5年度に宿毛市、令和6年度に室戸市にて調査実施。（現代）	
R4. 10	幡多地区の歴史	高知市中心の歴史だけではなく、幡多の歴史も取り上げてほしい（文武館、法然上人、迅衝隊など）	樋口真吉 顕彰会					○				・令和5年度に、幡多地域をフィールドとした資料調査を実施。（近世）（現代）（民俗） ・令和6年度以降も調査実施予定しており、既に令和6年度近代部会の合同調査では四万十市の郷土博物館や土佐清水市の議会事務局等で調査を実施した。（古代・中世）（近代）（考古） ・現代資料編では、高知県西部(主に幡多地域)に焦点をあてた構成を検討している。	
R5. 4	昭和の教育	昭和時代の本県の教育史を知る方は年々少なくなっており、昭和の教育史に力点を置いてほしい	高知新聞 オピニオン			○	○	○			○	・令和4年度に県立高知小津高等学校の資料調査を実施。（近代） ・令和5年度に県立高知工業高等学校及び県立春野高等学校の校友会資料、土佐清水市旧大津小学校資料の調査を実施。（近代）（現代） ・令和6年度には土佐女子中学高等学校、市立高知商業高等学校の資料調査を実施。（近代）	
R5. 10	海外資料の調査	資料調査活動を県内にとどまらず、海外も視野に入れて積極的に行ってほしい	県議会議員					○				・本県に関する資料が海外にも所在することを把握している(戦争関係資料など)。そこで、現地の県人会などの協力のもと情報を収集し、必要性を精査したうえで海外調査を検討したい。	
R6. 6	無形の文化財の 記録化	伝統工芸などの貴重な技術を次の世代に引き継ぐために、(製作過程などを)動画で残すなど、早く調査してほしい	県議会議員							○	○	・調査における資料採取は、できる限り写真や動画などデジタルデータで収集・保存している。 ・伝統工芸など無形の文化財は、関係の専門部会で協議のうえ調査を進めるが、収集したデジタルデータは、将来的に公開を検討しているデジタルアーカイブで共有するなどにより、次の世代への継承につながるよう取り組んでいきたい。	
R6. 9	<u>よさこい祭り</u>	<u>高知市史民俗編でも大きく取り上げられたが、高知県史においても「よさこい祭り」の歴史について取り扱ってほしい</u>	<u>大学職員</u>				○		○			<u>・民俗編で「まつり」を項目とし、伝統的な祭礼とともに「よさこい」を扱う案もあるが、確定されたものではないため、今後も検討を進めていく。（民俗）</u>	

古代・中世部会 活動報告

(1) 部会など会議の開催

○令和6年度第5回古代・中世部会の開催

6月28日(金) 9:30~11:30 Zoomによるオンライン開催

参加:(委員) 井上・津野・伊藤・岡本・石畑・平井・森・守田
(事務局) 山崎・土居・目良・野本

【主な議題】

- * 第9回高知県史編さん編集委員会の報告
- * 資料編(古代・中世史料1)の編集に関する検討
 - ・古代史料の凡例案検討とテキスト校正手法の確認
 - ・中世史料編纂(県内所在分)にむけた作業環境の検討
 旧県史収載の近世史料集収録史料データの再編成およびテキスト作成
Googleドライブを活用した史料画像およびテキスト共有環境の構築
委員間におけるテキスト校正方法の確認
- * 令和6年度史料調査計画に関する検討
- * あらたな『高知県史』古代・中世編の編集方針(案)の検討

○令和6年度第6回古代・中世部会の開催

9月13日(金) 9:00~11:00 Zoomによるオンライン開催

出席:(委員) 井上・津野・伊藤・岡本・石畑・平井・守田
(事務局) 山崎・土居・目良・野本

- * 資料編(古代・中世史料1)の編集に関する検討
 - ・Googleドライブ内の配置データおよび校正作業手順の確認
 - ・「蠹簡集」収載テキストによる具体的作業計画について
- * 令和7年度予算要望に関する検討
- * 関連調査の充実を目的とする科学研究費・基盤研究(A)への応募

○関連部会との連携打ち合わせ

7月24日(水) 10:00~ 考古部会、民俗部会、古代・中世部会長会議

- * 各部会の準備状況に関する認識共有
- * 調査・編集を進めるにあたり共通してあたるべき課題の共有
特に地名情報に関する調査状況・データ状況の共有

○中世資料担当者会議

10月21日(月) 13:30~15:00 Zoomによるオンライン開催

出席:(委員) 井上・津野・伊藤・岡本・平井
(事務局) 目良・野本

- * 「蠹簡集」収載テキスト校正の進捗確認と課題共有

(2) 史料調査

○合同調査

9月10・11日(火・水) 10:00～16:00 於岡山県林原美術館

参加：井上・津野・伊藤・岡本・石畑・平井・守田

「石谷家文書」3巻47通の熟覧調査(長宗我部氏関連史料)



(3) 資料編・本編編纂にむけた作業状況

○事務局作業

【古代】

- ・「古代史料テキスト」校正作業(森委員担当分) 93/381点(R6.10.4)

【中世】

- ・「蠹簡集」郡分け家分けテキスト分類作業完了 236件 687点(R6.4.17)
- ・「蠹簡集(棟札他)」 同上 130件 241点(R6.5.23)
- ・「蠹簡集拾遺」 同上 50件 60点(R6.6.29)
- ・「蠹簡集拾遺(棟札・金石文)」 同上 58件 286点(R6.6.29)
- ・「蠹簡集木屑(棟札・金石文)」 同上 80件 124点(R6.7.30)
- ・「蠹簡集木屑(棟札・金石文)」 同上 109件 154点(R6.8.5)
- ・「蠹簡集木屑」 同上 97件 280点(R6.8.29)

⇒史料編纂所で基礎史料目録に紐付け、校正用テキストとして使用

- ・文献PDF化作業(9月)

自治体史6件 津田町史・詫間町誌・新宇多津町誌・大野原町誌・綾南町誌・豊浜町誌資料編

- ・東京大学史料編纂所訪問撮影デジタルデータ一覧目録の作成 23件 41点
(R6.9.26現在)

※委員の作業支援のため、撮影済みデータが旧県史史料編の「蠹簡集」第何号にあたるか総チェックのうえ、文書名を決めて一覧化する。

- ・クラウド内データ整理作業 →SSDと内容同期 継続作業(R6.9.26)

○委員作業

〔中世担当委員〕

- ・「校正作業手順書」（別紙）に従って、県史クラウド上の中世史料（「蠹簡集」687点）のテキストと画像の校正作業。

〔古代担当委員〕

- ・史料漏れが無いのか、随時確認しデータ追加を継続。

○史料編纂所受託事業

- ・『土佐国編年史料控』収載史料の目録データ作成
 - 第2巻収載文書データ（文治～明徳） 481件
 - 第2巻収載記録データ（文治～明徳） 393件
 - 第3巻収載文書データ（明徳～天文） 370件

（４）今後の予定など

○第7回古代・中世部会（オンライン）

- ・12月の第1週または第4週で調整。

（検討事項：予定）

資料編の凡例（案）の検討

古代史料・中世史料テキスト編纂作業の進捗確認

「長宗我部関連史料」（資料編2 古代・中世史料2）収集方針の検討

(1) 第6回近世部会調査（令和6年7月6日・7日）

史料群名

五藤家文書（安芸市歴史民俗資料館所蔵）

調査場所及び人員

場 所：高知城歴史博物館 調査研究室

調査人数：部会委員8名・事務局2名 合計10名

調査概要

土佐藩の土居付家老であった五藤家に伝来する史料群で、藩の中枢部に関する情報が含まれた文書だけでなく、家政や家臣団、冠婚葬祭、贈答儀礼など当時の上級武士の暮らし等の内容も含まれている。今回の調査では、五藤家文書の中からデータ化が進んでいない史料を閲覧し、史料編掲載候補の選定及び撮影を行った。

(2) 第7回近世部会調査（令和9月10日～9月13日）

史料群名

①三谷家文書（高知県立図書館蔵 全29箱）

②大石家文書（高知県立図書館蔵 全2箱）

史料群の概要

①豊永郷西峯（現：大豊町）で代々道番庄屋を勤めた三谷家に伝来した史料群

②香美郡野市村（現：香南市野市）の新規郷士大石家に伝来した史料群

調査場所及び人数

場 所：オーテピア高知図書館 M5階 学習室

調査人数：総勢40人（部会委員7名・院生15名・県内学生15名・歴史文化財課3名）

調査の方法

・史料1点につき調査カード1枚作成及び撮影

史料点数

①三谷家文書…約3500点 / ②大石家文書…207点

合計 約3700点

調査の成果

〈成果〉

- ・三谷家文書・大石家文書ともに調査終了
→前回に引き続き、県内の学生も撮影だけでなく調査カード採録を行った
- ・調査カード 2,302 枚（三谷家 2,095 枚＋大石家 207 枚）
三谷家 … 撮影点数 217 点（撮影コマ数 595 コマ）
大石家 … 令和 4 年・令和 5 年度に個別調査で一部撮影（翻刻史料は 10 点）

〈課題〉

- ・今後の撮影進捗管理

（３）個別調査活動

文書整理

- ・渡部部会長・望月委員

馬路村魚梁瀬で御山番・山廻役を勤めた門脇家に伝わる史料群（326 点）の文書整理及び目録作成

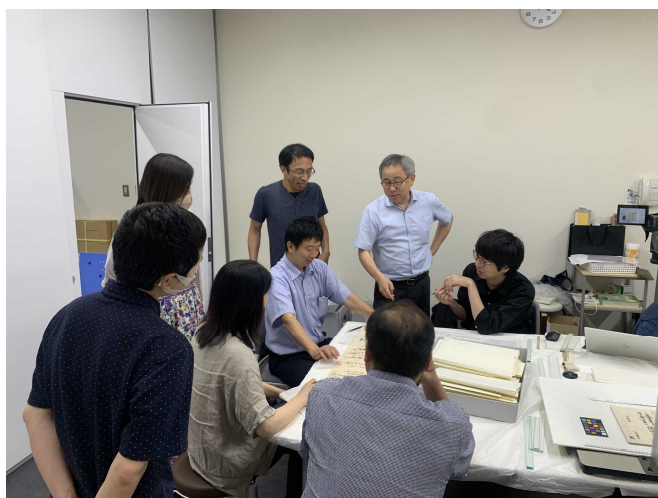
史料調査

- ・東野委員…高知県立歴史民俗資料館所蔵史料（堀見家など）の撮影・閲覧
- ・綱川委員…高知市民図書館所蔵史料（奥宮文庫・宮地家資料）の撮影・閲覧

（４）今後の日程について

- ・12 月 21～24 日 第 8 回近世部会調査
- ・3 月 15 日～22 日 北川家文書調査（※調整中）

【五藤家文書調査】



【三谷家・大石家文書調査】



【門脇家文書整理】



【近代部会】活動報告 (2024年6月～10月)

1, 部会の開催

(1) 第9回部会：6月27日（県史編さん室）

①令和6年度予算について、②近代資料編Ⅱの目次構成案の検討、③「新たな高知県史近代編の編集について」案の検討、④資料の翻刻について、⑤各委員の個別調査の実施と成果

(2) 第10回部会：9月20日（県民文化ホール会議室）

①資料編の体裁について、②史料編近代Ⅱの目次構成、③資料調査報告会について、④各委員の個別調査の実施と成果

2, 第5回合同調査：9月17日～19日（四万十市・大月町・土佐清水市）

①9月17日 四万十市役所及び旧中村町内（写真A・B）

- ・「蕨岡村役場資料」（蕨岡小学校校長室所蔵）の調査
- ・市教育委員会市史編さん室鈴木誉也氏及び田中全氏（秋水顕彰会・元市長）からの聞き取り
『四万十市史』刊行計画、県史との協力、旧中村町の所在資料、幡多地域史への視点等

②9月18日 大月町役場及び土佐清水市内（写真C～F）

- ・議会事務局資料、旧月灘村・奥内村（戦後大内町となる）役場資料の調査
- ・土佐清水市斧積地区の見学（ブラジル移民出身村）
- ・万次郎史跡・蓮光寺・足摺岬等巡検、土佐清水市郷土史同好会との懇親会

③9月19日 土佐清水市（写真G・H）

- ・土佐清水市議会事務局所蔵資料の調査



A 「旧蕨岡村役場資料」の調査



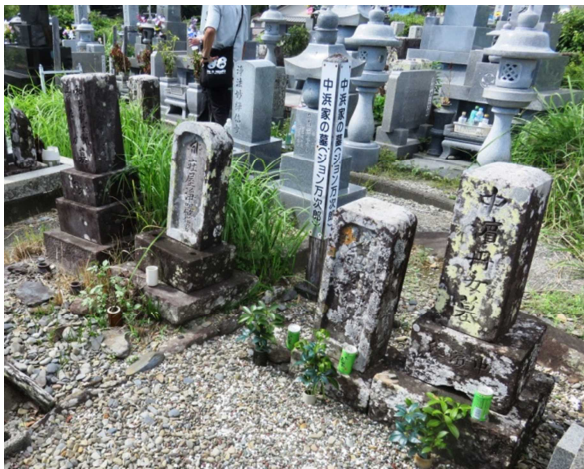
B 旧中村町内史跡の巡検



C 大月町議会事務局書庫



D 移民先駆者・弘田千代太顕彰碑



E 中浜家墓碑



F 土佐清水郷土史同好会との懇親会



G 土佐清水市役所での調査



H 土佐清水市議会事務局所蔵資料の一部

3, 資料編第2巻（町村制実施～1920年頃）の編集に向けた作業（継続）

①目次構成案の検討（ver. 4）

各ジャンル（政治行政、産業経済、社会、文化）の項目の検討及び主たる担当者の選定
次年度早々に大凡の構成案を確定して、編集委員会に報告する

②既刊の資料集等に採録されている資料の取扱

③主として県外で活動した人物の取り上げ方

4, 各委員・事務局の個別調査・資料撮影等

(1) 予備調査

- ・ 6月24日・25日 四万十市及び土佐清水市の資料所在調査・聞き取り
- ・ 7月23日 佐川町青山文庫
学芸員藤田有紀さんより文庫所蔵資料及び深尾家資料等の説明を受ける
近代佐川関係資料 『佐川徴古会雑誌』、『霧生』・『霧生関』、『青山会報』、明治期村誌など
- ・ 10月2日 土佐市立市民図書館の予備調査（事務局）
- ・ 11月6日 土佐市立市民図書館
「北原村役場資料」（高岡郡北原村） 目録掲載582点のサンプル調査

(2) 各委員の調査

- ・ 「土佐郡布師田村文書」（オーテピア図書館）
- ・ 高知商業会議所の地域経済調査の概要
- ・ 龍馬記念館の幕末京都藩邸資料
- ・ 「竹村家資料」（自由民権記念館所蔵）の調査など

(3) 調査済み資料の撮影

- ・ 「室戸市民図書館所蔵資料」の撮影を開始、一部クラウドにアップ

(4) 土佐清水市及び四万十市からのデータ提供

「土佐清水市学校資料」・「四万十市郷土博物館収蔵資料」としてクラウドにアップ

5, 今後の活動予定

- ①12月26日 第11回近代部会
- ②2月中旬（予定） 「令和6年度 歴史文化を通じたまちづくりシンポジウム」（安芸市）
- ③3月27日～29日 第6回合同調査（「北原村役場文書」を予定）
- ④3月30日 第12回近代部会

令和6年度 現代部会の活動状況

令和6年11月8日
高知県史編さん現代部会
正副部会長

1 資料編の構成について

(1) 資料編第1巻から第3巻の構成について

①巻構成の大きな流れ

県全体編と地域編の2部制の設定

②第1部：県全体の資料を掲載

第1巻 重点収録

第2巻 戦後前半期

第3巻 戦後後半期

③第2部：県内を3地域に分け地域のあゆみを表す資料を掲載

第1巻 県西部

第2巻 県東部

第3巻 県中部

(2) 資料編第1巻の現時点における構成

①第1部

地域と自然・災害／政治の動向／医療・保健・福祉／教育と文化・社会
移動と移民

②第2部

地域で生きる／地域の生態に根ざした生業／自治体広報誌に見る地域

③資料の基礎となる資料群について

○県立公文書館所蔵特定歴史公文書

○県議会図書室所蔵資料（県議会会議録・県公報等）

○各市町村役場/議会所蔵資料（会議録・陳情・請願等）

○オーテピア高知図書館所蔵資料（県報告書・ミニコミ誌等）

○県内企業・団体所蔵資料（農協・漁協・資料館等の広報誌など）

○県外企業・図書館等所蔵資料

（国会図書館・農水省図書館等の高知県関係資料）

○移動と移民関係資料

（公文書館・市町村役場・県内外図書館/資料館・県人会等）

2 令和6年度上半期の活動について

(1) 資料編の検討状況

①掲載候補資料の検討（資料選定の目安確認）

○令和6年8月30日開催の第6回現代部会にて、各委員5点以上10点以内の資料について、当該資料の概要(解説)及び選定理由を発表し、具体的な資料選定に向け、資料選定の目安やポイントを確認した。

②仮目次の検討

○資料編の編集を計画的に進めるため、仮目次を策定し、それに基づく具体的な資料選定を進められるよう同部会で協議した。

(令和6年内には仮目次を確定予定)

(2) 資料調査状況について

①高知県内

- 行政：高知市(土佐山)・室戸市・宿毛市土佐清水市・四万十町
大月町・黒潮町・三原村
県教育センター・県産業振興部・宿毛歴史館
- 団体：県木材協会・県建設業協会・県工業会
県国民健康保険団体連合会・四万十市職員組合
JF 高知県(旧室戸岬漁協・旧興津漁協等)・県鮪船主組合
すくも湾漁協・JA 高知県(旧十川村農協)・砂浜美術館
- 聞取：道の駅よつて西土佐駅長・旧婦全農場関係者
元県生活改良普及員・元県駐在保健婦
四万十町直販所関係者(十和のおかみさん市代表)

②高知県外

- ・県人会：大阪土佐東洋会・尼崎高知系県人会・京都高知県人会
大阪高知県人会・北海道高知県人会連合会・関東高知県人会
広島高知県人会
- ・図書館：国立国会図書館・東京都立中央図書館・大阪府立図書館
和歌山市民図書館移民資料室
- ・企業：敷島住宅、四国銀行守口支店及び大竹支店
- ・団体：神戸海外移住と文化の交流センター(日伯協会)

3 令和6年度下半期の活動予定について

(1) 検討が必要な事項

- ①分担（仮目次を基にページ分担を割り当て）
- ②凡例（翻刻に向け案を協議し策定）
- ③第2巻の具体的な編集スケジュール

(令和 8 年度：調査開始・令和 11 年度：編集作業開始・令和 13 年度：発刊)

(2) 第 7 回専門部会の開催

- ①日時：令和 6 年 12 月 26 日(木)
- ②場所：歴史文化財課県史編さん室 会議室
- ③内容：仮目次に基づくページ分担(案)・凡例(案)・調査選定状況の確認

(3) 合同調査

- ①日時：令和 7 年 2 ～ 3 月 (予定)
- ②場所：県東部 (漁業・農業・林業・教育関係)
- ③備考：台風の影響により中止した合同調査(令和 6 年 8 月)の再実施

4 検討課題

①聞き書き

資料編への掲載を検討 (文字資料以外も掲載を検討)

聞き取り対象者の調整 (どの項目で誰を聞き取り対象とするか)

第 10 回高知県史編さん編集委員会 考古部会資料

日時：令和 6 年 11 月 8 日

12 時 30 分～15 時 30 分

場所：高知県人権啓発センター

6F ホール

令和 6 年 7 月から 10 月までの主たる作業

「資料編 1 に掲載する遺跡の基盤情報調査と掲載遺跡の絞り込み、
及び編集スケジュールと基本フォーマットの検討」

1、部会委員の調査

- 7 月 ①民俗部会との協議、文化財・古代中世部会と協議
- ②四万十市遺跡確認調査「古津賀古墳、下田、香山寺ほか」
- ③高知県歴文課協議・高知県立埋蔵文化財センター協議
- 8 月 ①第 3 回考古部会（リモート）「春期部会活動の確認、秋期部会活動の
予定、次年度予算について」
- ②リモート協議「第 1 巻調査協力員について、第 1 巻編集スケジュール
について」
- ③居徳遺跡・倉岡遺跡資料の現状把握
- 9 月 ①古代瓦の基盤資料調査
- ②近世墓地基盤資料調査
- ③第 4 回考古部会
- ④第 4 回考古部会遺跡確認調査「宿毛貝塚ほか」
- ⑤高知県戦跡調査協議、3 次元調査実験
- 11 月 予定 ●古墳石室の 3 次元化調査実験、物部川旧流路調査、戦跡
- 宿毛貝塚遺物調査
- 12 月以降 ●山城の踏査と 1 城の地形測量
- 県外に収蔵されている高知県考古学史資料の調査

2、事務局の作業

(1) 資料編1掲載遺跡の絞り込みについて（見込み）

①旧石器時代	奥谷南遺跡等	5ヶ所
②縄文時代	松ノ木遺跡等	60ヶ所
③弥生時代	田村遺跡群等	75ヶ所
④古墳時代	朝倉古墳等	90ヶ所
		<u>計230ヶ所</u>

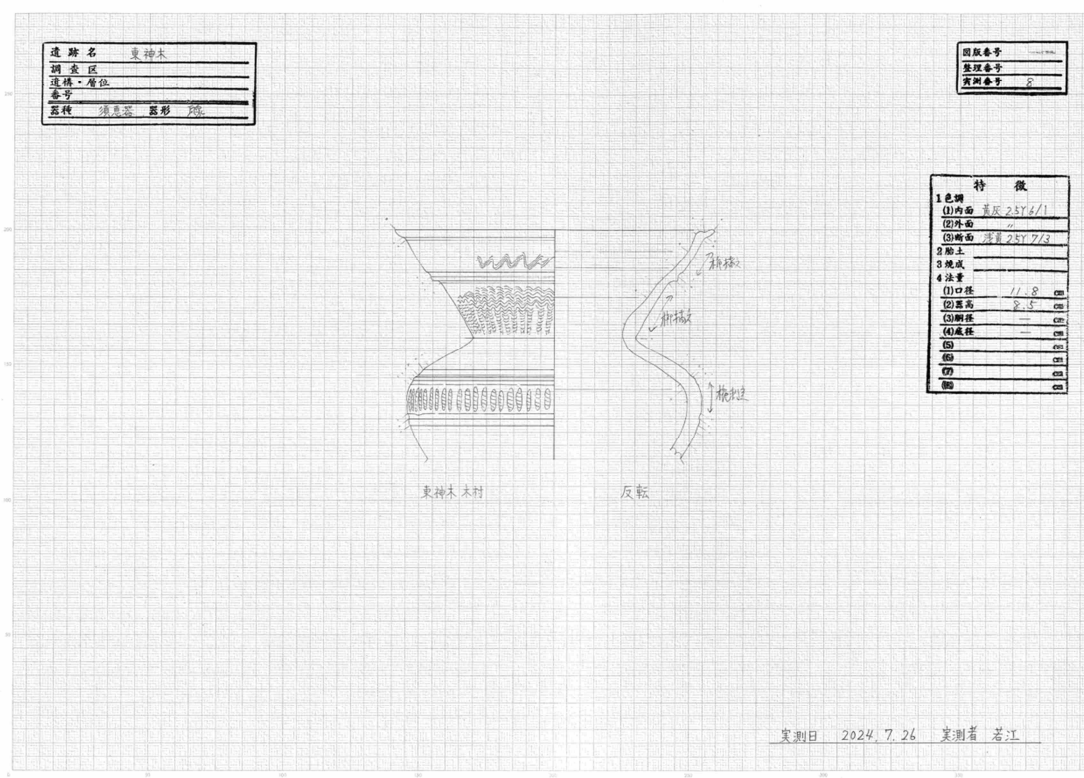
(2) 補助員による具同中山遺跡群等考古資料の実測（＝図化） 40点 （2頁下図）

(3) スケジュールについて（4頁）

(4) 基本フォーマットについて（5－10頁）

3、いざない（仮称）の執筆

「史跡 不動ガ岩屋洞窟」（水ノ江委員）、「野中廃寺」（大橋委員）



現 具同中山遺跡群（旧 東神木遺跡 四万十市中村）採集物（須恵器 甕）
実測図



坂本大平岩陰遺跡（仁淀川町池川坂本）

縄文人と弥生人が利用した“茶堂”のような性格の遺跡



鷹ノ巣山遺跡（いの町本川越裏門）出土物

標高 1,150m の山中で見つかった弥生土器

1. 刈谷我野遺跡(香美市香北町)

1. 遺跡の概要

刈谷我野遺跡は、香美市香北町太郎丸字後口屋敷に所在する。

縄文時代早期を中心とする集落遺跡であり、香美市物部の白髪山(標高1,770m)に源を発する、物部川中流域左岸の河岸段丘に形成されている(第1図)。

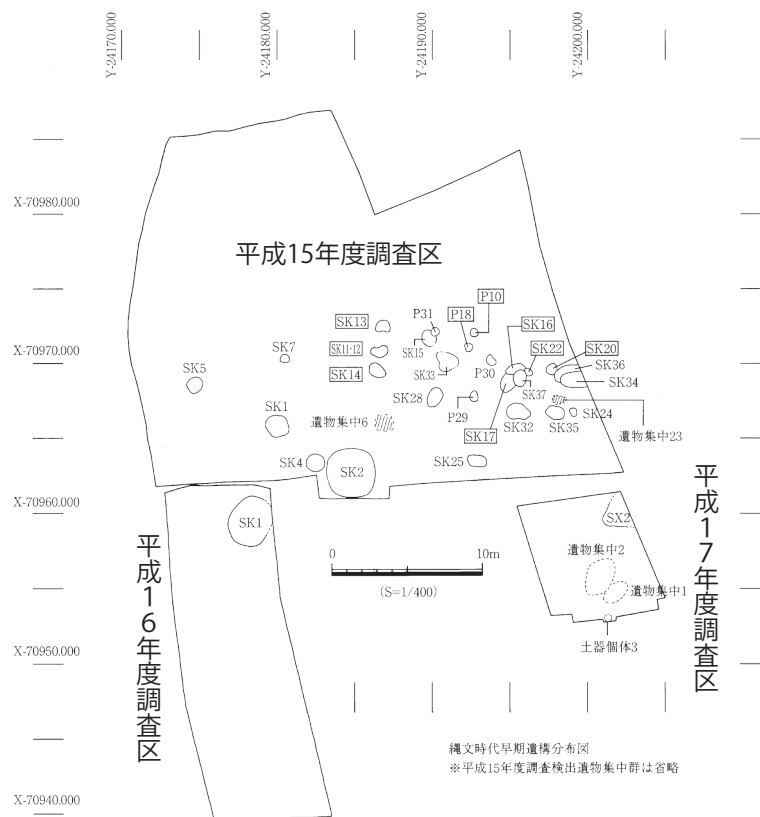
この遺跡は、古くは太郎丸遺跡と称したが、平成8年と平成10年の試掘確認調査で有望な遺跡であることが判明したために、地元より刈谷我野遺跡と名称変更するよう要望があり、現在に至っている。



第1図 刈谷我野遺跡位置図
(※国土地理院地図を加工)

2. 調査研究の成果

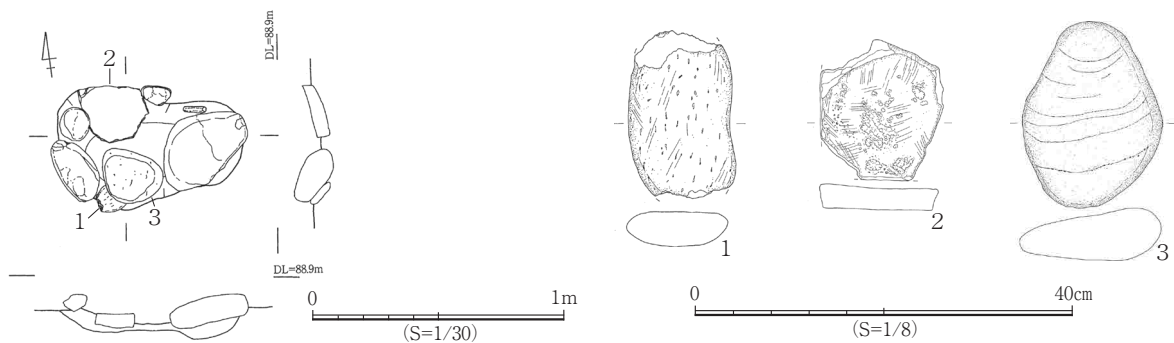
この遺跡では、個人住宅の建築に先立って、平成15年から平成17年にかけて記録保存を目的とした発掘調査が行われた(第2図)。



第2図 刈谷我野遺跡遺構分布図(『刈谷我野遺跡Ⅱ』より転載)

一連の調査において、地面を掘り込んで作られた大小の生活の痕跡が発見されている。

それらの中には、大形のもの(第2図:平成15年度調査区SK2と平成16年度調査区SK1)や、石皿や台石などの石器を配置したもの(第3図)が発見された。



第3図 刈谷我野遺跡遺物集中23遺構図及び出土遺物図(『刈谷我野遺跡Ⅰ』より転載)

これらのほか、ドンダリのように固い殻を外側にもつ種子、つまり堅果類の殻を割ったり、その実をすり潰したりする時に使用した敲石や磨石、そしてそれらを使用する時に台となる石皿や台石といった石器が集中した状態で発見されている。

出土した土器は、無文土器と押型文土器の他、僅かに撚糸文土器が認められる。

無文土器は、胎土に繊維を混ぜ込んで作ったものが多く、これらは基本的に厚手で、中には2cmを超えるものが認められる(第4図4～11)。

押型文土器は、模様を刻んだ木の枝などを土器の表面に回転させて文様をつけており、山形の模様を刻んだもの(第4図12～19)が多い。中には、無文土器のつくりであるのに山形の模様を刻んだもの(第4図13・14)がある。これらの他、楕円形の模様を刻んだもの(第4図20・21)がある。

次に、石器は敲石や磨石そして石皿や台石といった堅果類を加工するものが多数であるのに対し、石鏃などの狩猟に使う道具は数少ない。また、固形石鏃に似た形状の磨石(第4図23・24)は南九州で多く見られるが、山陰や近畿中央でも出土しており、広範囲で一時流行する石器として考えられる。

3. 遺跡の価値

高知県内における縄文時代早期、特に無文土器と押型文土器が使用された段階は、刈谷我野遺跡の調査が行われるまでは不動ヶ岩屋洞窟遺跡(佐川町、国史跡)と飼古屋岩陰遺跡(香美市土佐山田町)といった閉鎖的な空間で語られてきた。

これに対して刈谷我野遺跡は、河岸段丘という開放的な空間で営まれた遺跡であって、石器組成においても、石鏃など狩猟に使う道具が多い不動ヶ岩屋洞窟遺跡や飼古屋岩陰遺跡とは異なっている。このことより刈谷我野遺跡は、高知県内の縄文時代早期における生活様式には異なりがあることを示した遺跡として位置付けることができる。

この生活様式の異なりについて、堅果類と狩猟に着目するならば、そこには寒冷期と温暖期という季節の違いに原因がある可能性が考えられる。

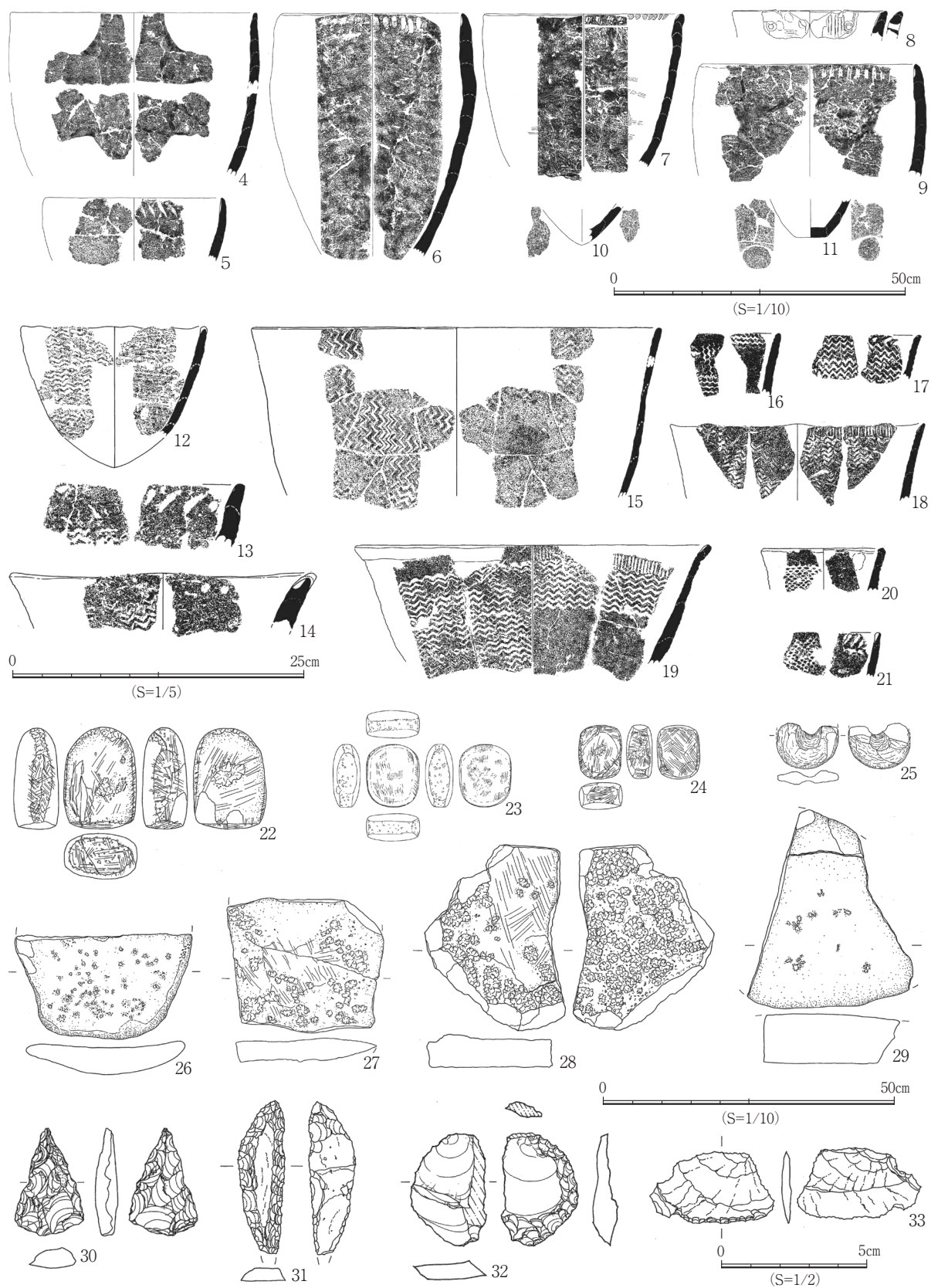
季節の違いによる生活様式の異なりについては、刈谷我野遺跡と近い時期の、岡山県岡山市所在の犬島貝塚でも見ることができ、そのヤマトシジミは春から初夏にかけて採取されたことが明らかになっている。しかし、その季節以外の営みを見ることはできない。

よって、犬島貝塚同様に、刈谷我野遺跡を営んだ縄文人は寒冷期は刈谷我野遺跡で過ごし、温暖期にはそことは異なる場所で生活を営んだと考えられる。

引用・参考文献

香北町教育委員会 2005 『刈谷我野遺跡Ⅰ』

香美市教育委員会 2007 『刈谷我野遺跡Ⅱ』



第4図 刈谷我野遺跡出土遺物図(『刈谷我野遺跡Ⅰ』と『刈谷我野遺跡Ⅱ』より転載)

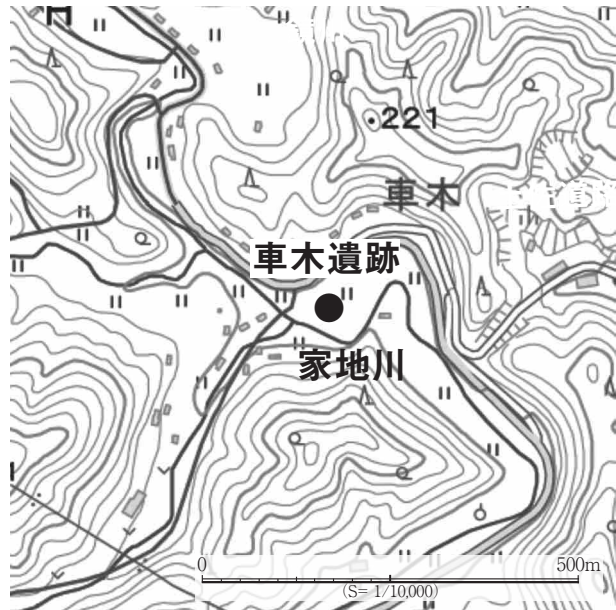
1. ^{くるまき}車木遺跡(四万十市西土佐)

1. 遺跡の概要

車木遺跡は、高知県四万十市西土佐字草木小字新田に所在する。

縄文時代前期の集落に関連する遺跡であって、四万十川支流の目黒川に注ぎこむ家地川上流の左岸にある河岸段丘の上に形成されている(第1図)。

この遺跡は、ほ場整備の最中に発見され、工事によって破壊される部分(第2図A-1～4区)について記録保存を目的とした調査が実施されたが、調査区の外(第2図B～D区)は盛土工法により保護されている。



第1図 車木遺跡位置図(※国土地理院地図を加工)

2. 調査研究の成果

この遺跡の土壌堆積は、下記のとおりである。

第1層、灰色粘土層(田泥土)

第2層、アカホヤ火山灰土層
(黄褐色)

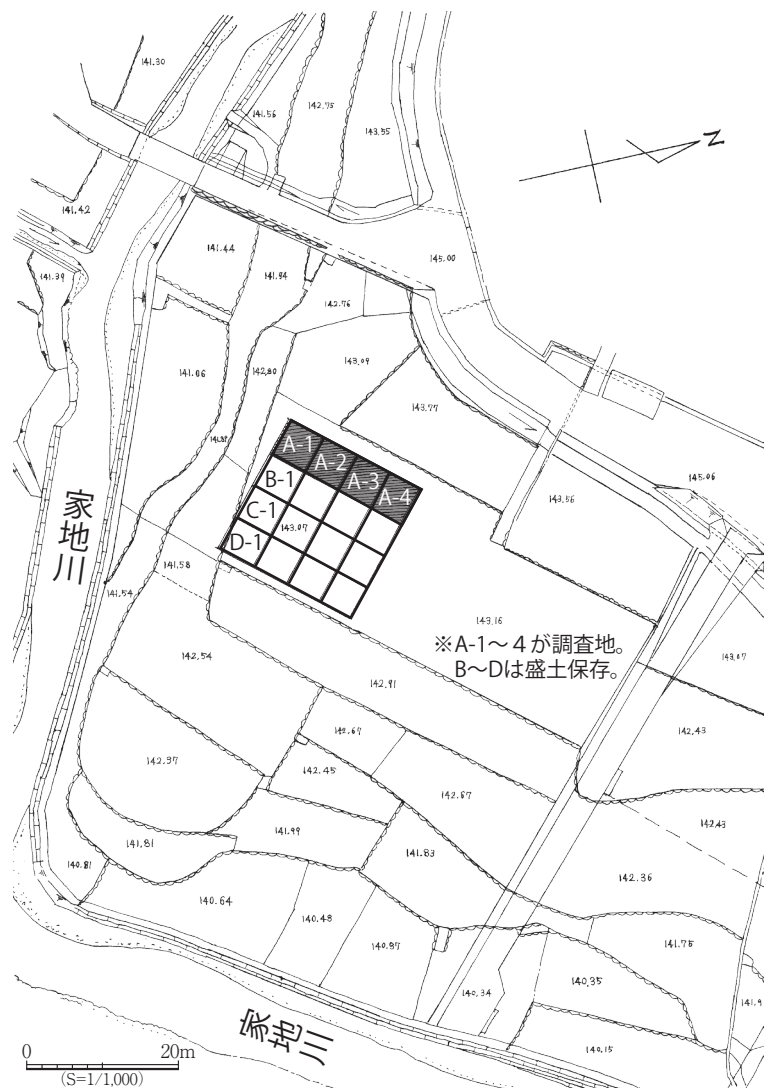
第3層、灰茶褐色粘土層
(細礫多混入)

第4層、茶褐色粘土層
(チョコレート色)

第5層、砂層
(大粒砂、一部角礫混入)

第2層から第4層にかけて遺物の包蔵が確認された。第2層と第3層を中心に黒曜石やサヌカイトが出土しており、黒曜石は大部分県国東半島沖の姫島、サヌカイトは香川県金山などの遠隔地からのものである。

また、石器を作る際に生じる剥片や石核が出土しているため、確実にこの遺跡では、石器の製作が行われていたと言える。



第2図 車木遺跡調査区(『車木遺跡』より転載・加筆)

また、生活の痕跡として、石を集めて作られた集石遺構が、第3層の上面で二つ確認されている(第3・4図)。

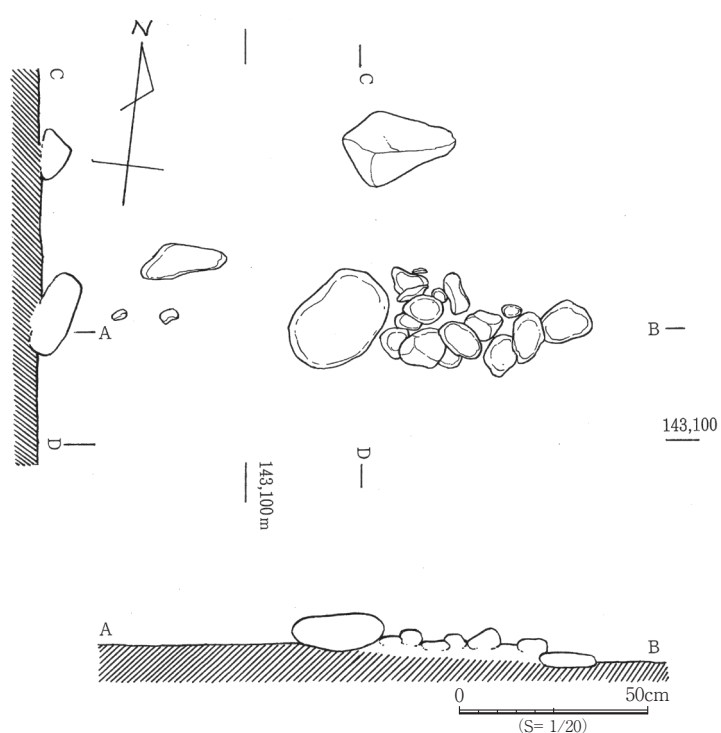
いずれも川から運ばれてきた円礫を中心とし、その多くは赤変していた。

そして、円礫にはタール状のものが付着し、A-4区のものには遺構内とその周辺の床面までもが赤褐色に変色していた。

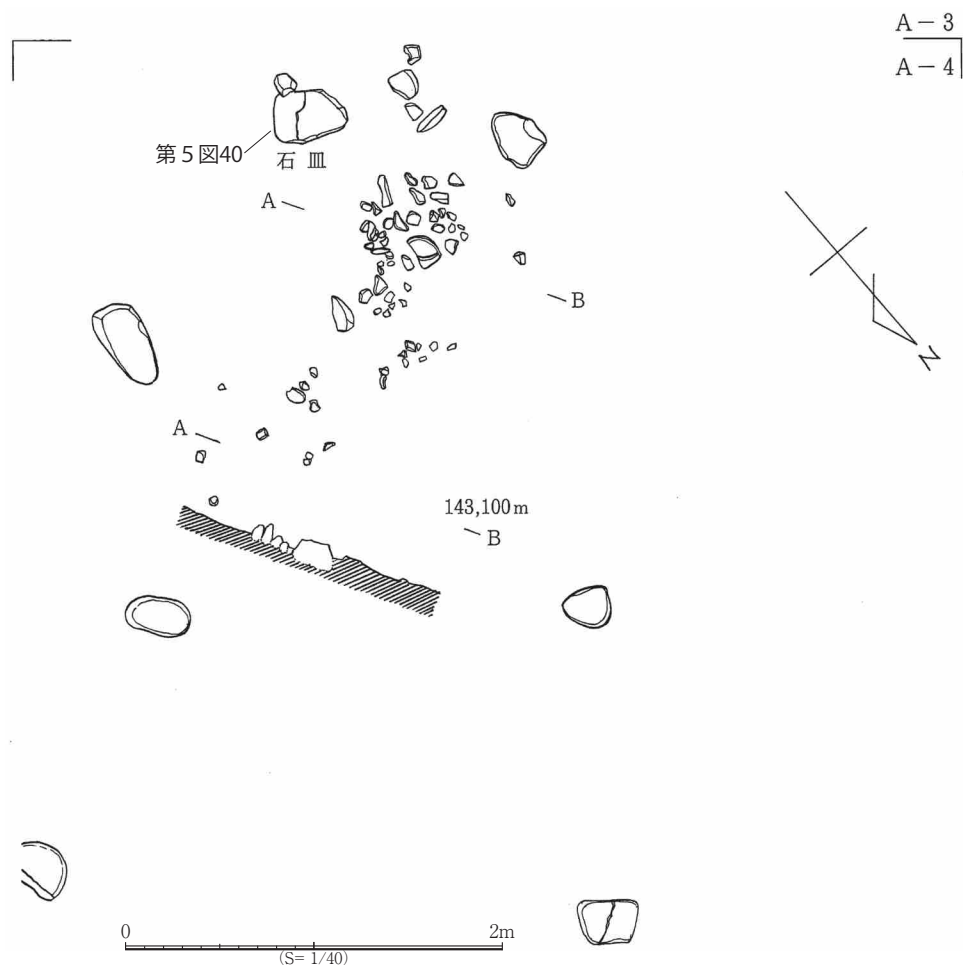
よってこれらについては、火を使用した生活の痕跡と判断出来る。

ただし、A-4区のものには石皿(第5図40)という石器を認めることができ流ため、単に火を使用しただけではなく。ドングリなどの植物質のものを加工したことが考えられる。

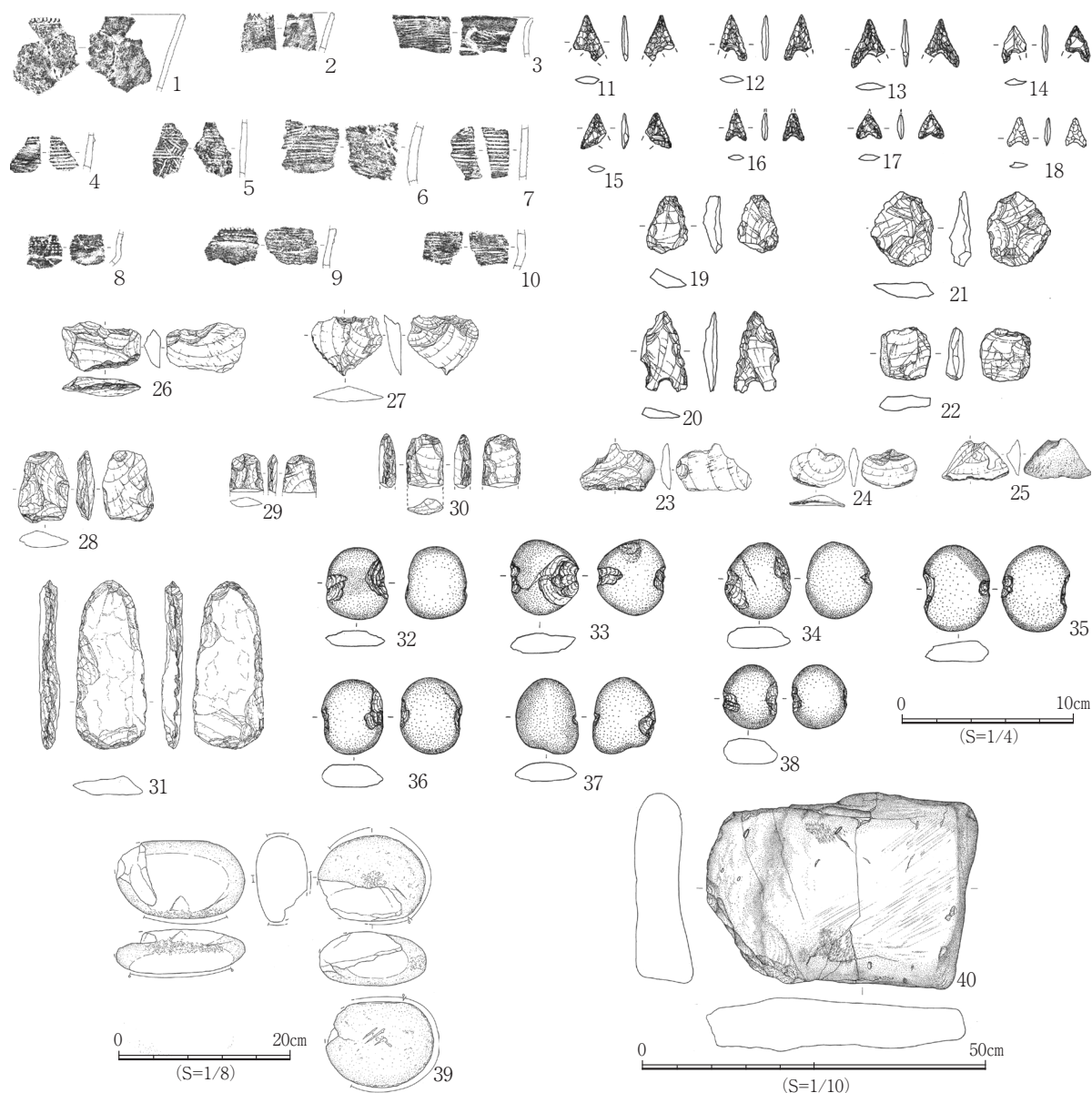
この石皿の対として使う石器として磨石(第5図39)が出土している。



第3図 車木遺跡 A-2区集石遺構(『車木遺跡』より転載)



第4図 車木遺跡 A-4区集石遺構(『車木遺跡』より転載)



第5図 車木遺跡出土遺物図(『車木遺跡』より転載)

3. 遺跡の価値

高知県内における縄文時代前期の様相については、断片的な立地や土器に関する情報が得られていたものの、車木遺跡の調査が行われるまでは基本的に不明な状況であった。

本遺跡の様相が、すなわち高知県内の普遍的な縄文時代前期の様相とは断定できないものの、石鏃(第5図11~18)から鹿や猪を狙った狩猟、石錘(第5図32~38)から家地川でのアユやハヤなどの川魚を狙った漁撈があったことをうかがい知ることができる。それらを二つの集石遺構で調理したと考えられ、石皿と磨石で加工した植物質食料は動物質食料が多めの食生活に華を添えたことだろう。その側には、家屋や貯蔵施設があった可能性があり、早期よりも進んだ居住様式があったと考えられる。

そして何よりも、南九州を中心に広く分布する甕式と近似する土器(第5図1~10)が出土していることから、東九州や瀬戸内よりも遠い地域との繋がりを見ることができる。

引用・参考文献

西土佐村教育委員会 2001 『車木遺跡』

令和6年11月8日

令和6年度 高知県史民俗部会の活動について

今年度6月以降、最初に刊行される資料編1『ことばと伝承（仮）』を中心に、本編第1巻に向けて、主な活動として下記の通り進めてきた。

1. 資料編1『ことばと伝承（仮）』に向けて

資料編1は「民話」「民謡」「地名」の三章構成である。民俗部会委員および調査協力員から担当者を決めて作業を進めている。

各章の担当者には、「民話」に常光徹部会長、「民謡」に調査協力員として神戸大学名誉教授の岩井正浩氏、「地名」に調査協力員として高知新聞社の楠瀬慶太氏があたっている。7月2日に担当者会議を行い、全体の章構成やページ割り、刊行までの作業計画等について協議した。

「民話」

- ・資料編1の民話の編集に向け、昔話・伝説集などの単行本や市町村史に掲載されている高知県の民話のリスト化作業を、県史編さん民俗部会担当職員と学生アルバイトによって進めている。
- ・民話研究者の市原麟一郎氏が生前に記録した録音テープや調査ノートの調査。特に録音テープについては所蔵者である高知県立文学館と協議の上、来年度にデジタル化を行う予定。
- ・香美市、いの町、佐川町、須崎市、中土佐町での、伝説についての現地調査を実施。県史に掲載するため、現地の写真の撮影も行う。



香美市久保高井での山崩れ伝説の調査



いの町大国町の梶本神社での伝説調査

「民謡」

- ・昭和 62、63 年度に実施された「高知県民謡緊急調査」の成果をもとに、構成や掲載する民謡の検討を行っている。一部民謡については楽譜を作成し掲載する計画である。

「地名」

- ・文献や現地調査の情報をもとに、地名のデータベースを作成している。
- ・いの町、土佐町、宿毛市、四万十市、香南市で地名についての聞き書き調査を行った。



四万十市津蔵渕での地名調査



いの町清水 にこ淵近辺での地名調査

2. 本編第 1 巻に向けて

本編第 1 巻は高知県の地域性を「山村」「平地農村」「町と都市」「海村」の章に分け、それぞれにおける民俗の特徴を記述する構成となっている。各章の担当者は、「山村」に飯高伸五委員と梅野光興委員。「平地農村」に安室知委員と中村淳子委員。「町と都市」に山本志乃委員。「海村」に川島秀一委員が当たる。

また、序論で高知の自然と風土の特徴について記述する予定で、現在、安室委員が民俗地図の作製とアンケート調査の準備をすすめている。

6 月以降の個別調査としては、上記のほかに以下の活動を行った。

- ・四万十町興津、香南市手結でのシイラ漁調査。(川島委員)
- ・四万十町興津八幡宮の祭礼調査。(川島委員)
- ・須崎市中心部の魚市場の調査。(山本委員)
- ・梶原町の町場、茶堂、行商の調査。(山本委員)
- ・南国市の土曜市の調査。(山本委員)
- ・梶原町越知面の二十日念仏の調査。(飯高委員)
- ・東洋町野根の盆墓の調査。(常光部会長・飯高委員 詳細は後述)
- ・アンケート調査票作成のための県内の文献調査。(安室委員)



四万十町 興津八幡宮の祭礼調査

3. 東洋町合同調査

令和6年10月31日～11月4日にかけて、東洋町での合同民俗調査を実施。令和4年度は中土佐町、令和5年度は梶原町で合同調査を行っており、本編の編集に向けて、県東部の民俗について本格的に検討していくきっかけとする。

事前調査として、8月から10月にかけて民俗部会委員と事務局で現地を数回訪問し、情報収集を行った。



東洋町野根の盆墓の調査

8月15日の事前調査の際、郷土研究家の原田英祐氏の案内で、お盆の時期に野根地域の河原に作られる「盆墓」の調査を行った。

令和7年度発足 高知県史編さん文化財部会について

文化財部会の方針

○編さん計画

- ・「文化財の体系図」（参考）をベースに巻を構成
 - 1 冊目 資料編 3 …無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観
 - 2 冊目 資料編 1 …有形文化財（美術工芸品）
 - 3 冊目 資料編 2 …有形文化財（建造物）・伝統的建造物群
- ・調査が急がれる分野から、編さんを開始

○編集方針

- ・高知県の自然環境、歴史文化に根ざした特色ある有形・無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群について、その価値を広く県民に共有し、保存と活用につながるような紙面構成にする。
- ・国及び県指定文化財について、指定以前の状況や指定の理由、経緯（美術工芸品や建造物などは修復の状況、民俗芸能継続への取り組みなど）が分かる資料を博搜し、資料編に盛り込む。
- ・各巻の総論では、近代以来の文化財保護や活用、指定に関する歴史を執筆する（通史、学史）。
- ・指定文化財以外の文化財についても、重要なものはコラムのような形で掲載する。

文化財部会の体制

○委員数について

- ・資料編の巻ごとに構成内容が異なるため、1巻ごとに委員を委嘱する。
 - ①資料編 3 …部会長、副部会長、委員 4 名（民俗文化財ほか）
 - ②資料編 1 …部会長、副部会長、委員 4 名（美術工芸品）
 - ③資料編 2 …部会長、副部会長、委員 4 名（建造物）
- ・他の専門部会より委員数を減じ、調査協力員を増員する。
指定数が少ない無形文化財や選定保存技術、天然記念物（昆虫）などは、調査協力員に調査、執筆を依頼。

他の専門部会との分担、調整について

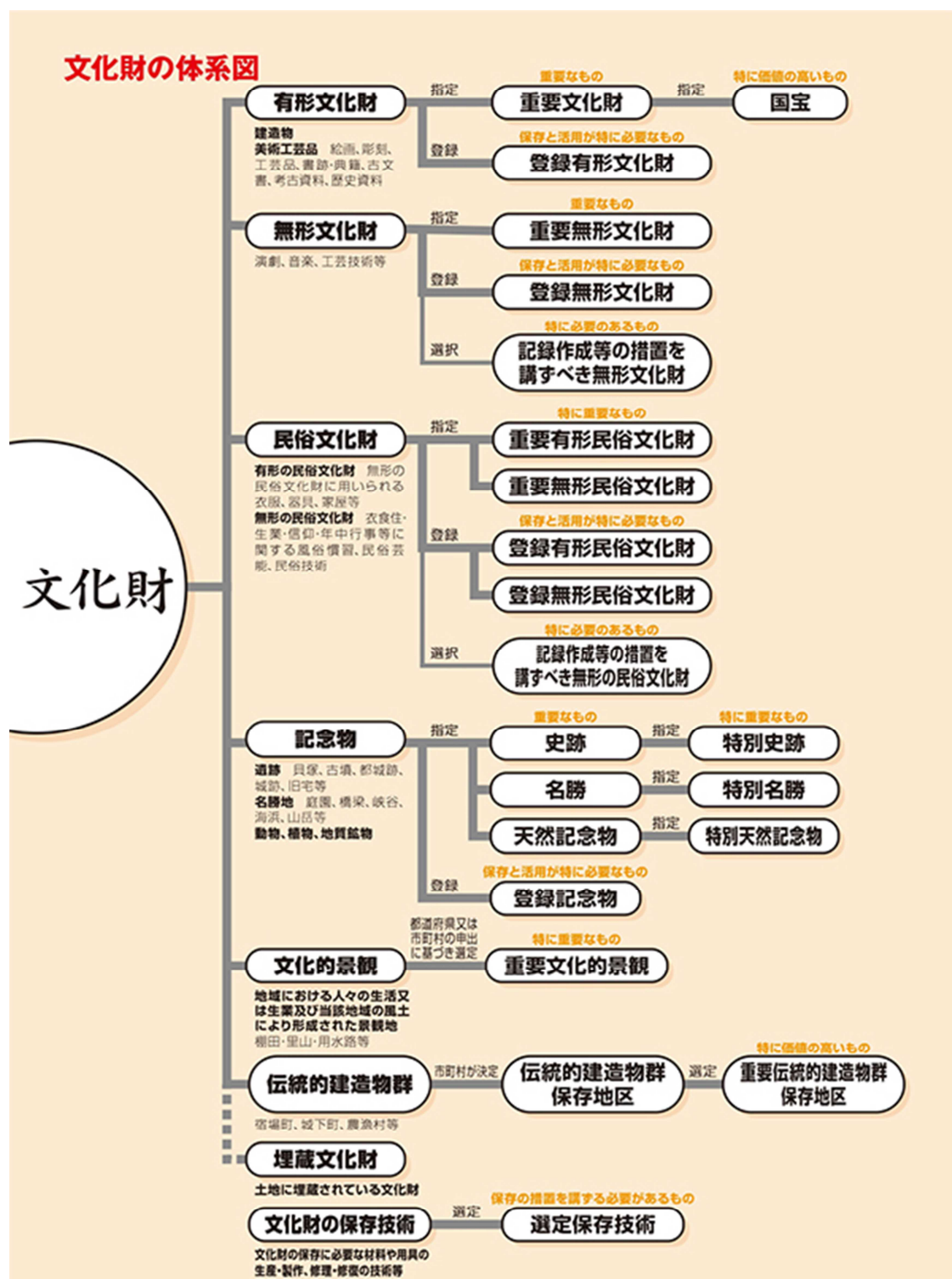
○現時点での検討案

- ・棟札…国宝・重文の棟札（近世まで）は調査・リスト化されている
その他の寺社等棟札、落書を含め、遺存有無のリスト化は可能
- ・史跡（不動ガ岩屋洞窟、朝倉古墳など）…地域での保存、指定の経緯、理由等をメインに
- ・四国へんろ…『四国八十八箇所霊場と遍路道調査報告書』、『高知県「四国八十八箇所と遍路道」総合調査報告書』などを基に検討

- ・ 災害史…津波・地震、水害、土砂崩れなど自然災害碑のリスト化及び立地、碑文の情報化
- ・ 高知城及び城下町、土佐藩主山内家墓所、儒墓・土佐南学の墳墓、産業遺産、戦争遺跡の取扱いについて

⇒各専門部会の編集方針（内容、掲載方法含む）を踏まえ、共同調査や分担執筆について今後検討・調整が必要

【参考】文化財の体系図



令和 7 年度予算要求の概要について

1 編さん体制の構築

- ・編さん委員会を 1 回、編集委員会を 3 回開催
- ・既存の 6 部会（近世・近代・民俗・古代中世・現代・考古）に加え、来年度から文化財部会を立ち上げ、既存の 6 部会には 8 名の委員（正副部会長を含む）及び新設の文化財部会は 6 名（正副部会長を含む）の委員で構成。また各部会、基本的に 2 名の事務局職員（正職員 1 名＋会計年度任用職員 1 名）を配置。

2 令和 7 年度高知県史編さん事業の全体予算（案）

- ・ 112,240 千円 （令和 5 年度：84,632 千円）
 - 内訳（1）編さん体制の構築・運営 34,731 千円（令和 5 年度：25,725 千円）
（編さん委員会・編集委員会委員謝金・旅費、事務局運営費）
 - （2）調査・編集活動経費 74,366 千円（令和 5 年度：54,642 千円）
（委員月額謝金、各専門部会活動費、事務局活動費、クラウドサービス維持費）
 - （3）広報啓発・人材育成 3,143 千円（令和 5 年度：4,265 千円）
（広報誌作成等広報活動、養成講座・講演会等開催経費）

3 専門部会における予算要望

【 古代・中世部会 】

- 資料調査(旅費)
県内における集合調査、個別調査（計 2 回、全委員分、2 泊 3 日）
県外機関の所蔵史料調査（年 1 回、全委員分、2 泊 3 日）
- 資料調査（人件費）
日々雇用職員による古代史料の原稿化作業(約 200 時間)
中世史料目録への紐づけ作業(約 320 時間)
史料テキストの校正作業や調査協力員による調査補助
- 調査委託料（東京大学史料編纂所）
史料編纂所に所蔵されている高知県関連の古代・中世複製史料の収集・整理

【 近世部会 】

- 資料調査(旅費)
県内における集合調査、個別調査（計 3 回、全委員＋大学院生分、3 泊 4 日）
県外機関の所蔵史料調査（年 1 回、委員 2 名分、3 泊 4 日）

- 資料調査（人件費）
県内大学生による資料撮影及び翻刻、データ入力・整理作業(約 3,230 時間)
集合調査時における県内大学生・県外大学院生による調査補助(約 966 時間)
- 翻刻作業
R 8 刊行予定の史料編に向けた翻刻作業（原稿用紙 4,000 枚分）
- 執筆作業
R 8 刊行予定の史料編に向けた執筆作業（原稿用紙 2,000 枚分）

【 近代部会 】

- 資料調査(旅費)
県内における集合調査、個別調査（計 3 回、全委員分、3 泊 4 日）
県外機関の所蔵史料調査（年 1 回、委員 2 名分、3 泊 4 日）
- 資料調査（人件費）
県内大学生による資料撮影及び翻刻、データ入力・整理作業(約 2,580 時間)
集合調査時における県内大学生・県外大学院生による調査補助(約 672 時間)
- 翻刻作業
R 9 刊行予定の史料編に向けた翻刻作業。
民間の調査研究機関へ翻刻作業を委託(約 3,000 コマ)
残りを県内外の専門的知識を有する院生等に依頼する予定。
(原稿用紙 1,000 枚)

【 現代部会 】

- 資料調査(旅費)
県内における集合調査、個別調査（計 4 回、全委員分、3 泊 4 日）
県外機関の所蔵史料調査（年 3 回、委員 2 名分、3 泊 4 日）
- 資料調査（人件費）
県内大学生による資料撮影及び翻刻、データ入力・整理作業(約 1,344 時間)
集合調査時における県内大学生・県外大学院生による調査補助(約 112 時間)
- 翻刻作業
R 10 刊行予定の資料編に向けた翻刻作業（原稿用紙 100 枚分）

【 民俗部会 】

- 資料調査(旅費)
県内における集合調査、個別調査（計 5 回、全委員分、2 泊 3 日）
県外機関の所蔵史料調査（年 1 回、委員 2 名分、2 泊 3 日）
- 資料調査（人件費）
県内大学生によるデータ入力・整理作業等(約 2,016 時間)

集合調査時における県内大学生・県外大学院生による調査補助(約 112 時間)
地名調査等への調査協力員による調査補助

○ 作業依頼料

資料編Ⅰに掲載予定の民話について民話録音テープのデジタル化

資料編Ⅰに掲載予定の民謡について民謡楽譜の浄書化

【 考古部会 】

○ 資料調査(旅費)

県内における集合調査、個別調査(計 4 回、全委員分、3 泊 4 日)

県内における中世城郭調査(計 6 回、4 名分)

古墳調査(年 1 回、3 名分、1 泊 2 日)等

○ 資料調査(人件費)

会計年度任用職員による考古資料の図化等作業

各調査等への調査協力員による調査補助

○ 調査委託料(古墳三次元測量調査)

資料編に掲載予定の古墳について三次元計測を行い、三次元データで記録する。

【 文化財部会 】

○ 資料調査(旅費)

県内における個別調査(計 1 回、8 名分、2 泊 3 日)

県外機関の所蔵史料調査(年 2 回、委員 3 名分、2 泊 3 日)

○ 資料調査(人件費)

日々雇用職員による資料の PDF 化作業(約 640 時間)

PDF 資料の OCR 及び校正作業(約 160 時間)

調査協力員による調査等補助

3 人材育成・広報啓発

- ・ 郷土の歴史及び県史への関心を高めるための講演会を開催
- ・ 学校や団体等の要請に応じて、歴史に関する出前講座を実施
- ・ 県内の歴史系文化施設と連携し、資料調査隊の養成講座を実施
- ・ 県の文化広報誌「とさぶし」や県の広報媒体を活用した、編さん状況や本県の歴史の魅力の発信
- ・ 県民の方々向けの刊行物(「高知県史へのいざない(仮称)」)の制作

広報啓発・人材育成の実施状況について

1. 広報啓発

(1) 文化広報誌「とさぶし」の刊行

- ・文化広報誌「とさぶし」を活用した広報の展開
（「つないでつむいで 県史編さん室」）。
- ・令和6年度も7月、9月、12月、3月の計4巻発刊予定。
- ・7月・・・高知人が育んだ情熱のフルーツ
9月・・・夏のこども ～遊ぶことがいちばんの学び！～
今後の発刊予定
12月・・・高知の城下町文化 城が見えるまち(仮)

(2) 事業報告書「新たな高知県史へのいざない(仮)」

- ・報告書の主な仕様(予定)
規 格 : A4・16ページ(各部会2ページ)・フルカラー
部 数 : 3000部
発刊時期: 令和7年3月
- ・現在の状況と今後の予定
入札が完了し、業者も決定の上、契約。仕様や構成の協議等を行い、各専門部会へ
原稿の作成依頼を行った。(12月上旬締切)
また Facebook にて1月に1回、資料調査の様子等記事を掲載。

主な掲載内容

- ①成果報告(写真等画像データ及び本文800文字程度)
県史の調査活動で取り扱った史料(資料)の紹介
- ②トピックス(選択制)
成果報告に関連して、特筆すべき点や調査の裏話などトピック的なものを紹介
- ③部会委員紹介(初回なので部会長を想定)
高知県史にかける考えや思いの掲載

(3) HPへの掲載について

県史編さん室のHPを随時更新中。
部会による現地調査時の様子の写真や記事を順次掲載。
また、実施済みの養成講座の様子や編集方針についても掲載。

【参考】各サイトへのQRコード



(1)とさぶし HP
(県史特集ページ)



(2)県史編さん室 Facebook



(3)県史編さん室 HP

(4) 成果報告会の開催（予定）

下記のとおり安芸市と共催で実施予定。

- ・令和6年度 高知県史編さん事業／安芸市文化財調査 成果報告会
日 時：令和7年2月8日（土）
主 催：高知県歴史文化財課県史編さん室(近代部会)
会 場：安芸市民会館 2階会議室

2. 人材育成

(1) 「歴史資料調査隊」養成講座の開催

- ・下記のとおり令和6年度養成講座を実施。

①令和6年6月29日～30日 「資料撮影編」

講 師：高知県立高知城歴史博物館 地域企画課
内 容：歴史資料の取扱い方、写真撮影方法
修了者数：10名

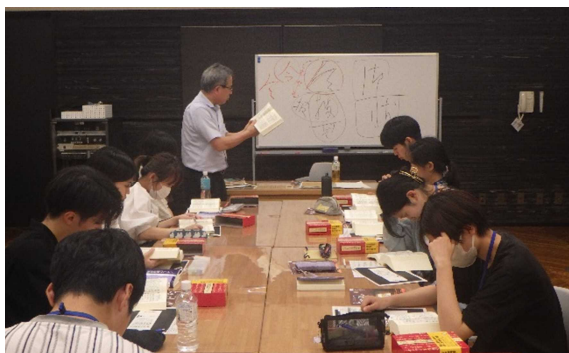
②令和6年7月13・20日、8月10・24日 「史料解読編」

講 師：高知県立高知城歴史博物館 地域企画課
内 容：古文書解読の基礎講座、調査カード採録など
修了者数：9名

- ・修了生の内計14名を会計年度任用職員（日々雇用）として採用。県史編さん室での資料撮影、翻刻作業、データ整理業務等に携わっていただく。
- ・修了生に対し継続的に歴史資料調査に携わる機会を提供していく。



(写真1・2)歴史資料隊養成講座「資料撮影編」の様子



(写真3・4)歴史資料隊養成講座「史料解説編」の様子

		記入例	古代中世部会	近世部会	近代部会	現代部会	考古部会	民俗部会	備考	
背表紙	副題(有無)	有	無	無	無	有	有	有	副題有・・・現代、考古、民俗 副題無・・・古代中世、近世、近代 (資料編　〇〇1)	
	副題ありの場合 副題(案)	高知県史　資料編 〇〇1　△△編				高知県史　資料編　現代1　　くらし1／県西部	高知県史　考古資料編1 (旧石器・縄文・弥生・古墳)	高知県史 民俗資料編 1 ことばと伝承（仮）		
中表紙	副題(有無)	有	無	無	有	有	有	有	副題有・・・近代、現代、考古、民俗 副題無・・・古代中世、近世 (資料編　〇〇1) ※近代は背表紙と中表紙で異なる	
	副題ありの場合 副題(案)	高知県史　資料編 〇〇1　△△編			高知県史　近代資料編 1 自由民権編	高知県史　資料編　現代1　　くらし1／県西部	高知県史　考古資料編1 (旧石器・縄文・弥生・古墳)	高知県史 民俗資料編 1 ことばと伝承（仮）		
参考(他県事例)										
青森県	背表紙		青森県史　資料編　中世1　南部氏関係資料	青森県史　史料編　近世1　近世北奥の成立と北方世界	青森県史　資料編　近現代1　日記		青森県史　資料編　旧石器　縄文草創期～中期	青森県史　民俗編　資料　南部	・各部会共通(副題あり) ・内容について記載 ・背表紙と中表紙が同一名	
	中表紙		青森県史　資料編　中世1　南部氏関係資料	青森県史　史料編　近世1　近世北奥の成立と北方世界	青森県史　資料編　近現代1　日記		青森県史　資料編　旧石器　縄文草創期～中期	青森県史　民俗編　資料　南部		
静岡県	背表紙		静岡県史　資料編 5　中世一	静岡県史　資料編 9　近世一	静岡県史　資料編16　近現代一		静岡県史　資料編 1　考古一	静岡県史　資料編23　民俗一	・各部会共通(副題なし) ・背表紙と中表紙が同一名	
	中表紙		静岡県史　資料編 5　中世一	静岡県史　資料編 9　近世一	静岡県史　資料編16　近現代一		静岡県史　資料編 1　考古一	静岡県史　資料編23　民俗一		
愛知県	背表紙		愛知県史　資料編 8 中世1(横書き)	愛知県史　資料編15　名古屋・熱田 近世1(横書き)	愛知県史　資料編24　政治・行政1 近代1(横書き)	愛知県史　資料編36　現代		愛知県史　資料編 1　旧石器・縄文 考古1(横書き)	愛知県史　別編　総説 民俗1(横書き)	・部会によって異なる ・基本的には背表紙と中表紙が一致
	中表紙		愛知県史　資料編 中世1	愛知県史　資料編 近世1 名古屋・熱田	愛知県史　資料編 近代1 政治・行政1	愛知県史　資料編36　現代		愛知県史　資料編 考古1 旧石器・縄文	愛知県史　別編 民俗1 総説	
三重県	背表紙		三重県史資料編 古代・中世(上)(横書き)	三重県史資料編 近世1(横書き)	三重県史　資料編 近代2 政治・行政Ⅱ	三重県史　資料編 現代1 政治・行政		三重県史　資料編　考古1	三重県史　別編　民俗	・部会によって異なる ・背表紙と中表紙が同一名
	中表紙		三重県史資料編 古代・中世(上)	三重県史資料編 近世1	三重県史　資料編 近代2 政治・行政Ⅱ	三重県史　資料編 現代1 政治・行政		三重県史　資料編　考古1	三重県史　別編　民俗	
鳥取県	背表紙		新鳥取県史　資料編　古代中世1 古文書編	新鳥取県史　資料編　近世1 東伯耆	新鳥取県史　資料編　近代1 鳥取県史料1	新鳥取県史　資料編　現代1 政治・行政		新鳥取県史　考古1 旧石器・縄文・弥生時代	新鳥取県史　民俗1 民俗編	・各部会共通(副題あり) ・内容について記載 ・背表紙と中表紙が統一
	中表紙		新鳥取県史　資料編　古代中世1 古文書編	新鳥取県史　資料編　近世1 東伯耆	新鳥取県史　資料編　近代1 鳥取県史料1	新鳥取県史　資料編　現代1 政治・行政		新鳥取県史　考古1 旧石器・縄文・弥生時代	新鳥取県史　民俗1 民俗編	
山口県	背表紙		山口県史　史料編　中世1	山口県史　史料編　近世1	山口県史　史料編　近代1		山口県史　史料編　現代1	山口県史　資料編　考古1	山口県史　資料編　民俗1	・背表紙については各部会共通(副題なし) ・中表紙について副題が現代・民俗で追加 されており統一はされていない
	中表紙		山口県史　史料編　中世1	山口県史　史料編　近世1	山口県史　史料編　近代1		山口県史 史料編　現代1 県民の証言　体験手記編	山口県史　資料編　考古1	山口県史 資料編　民俗1 民俗誌再考	

「新たな高知県史へのいざない(仮称)」の題名案について

1. 史料調査の成果をまとめた刊行冊子について

(1) 仕様

- ・ A4、フルカラー、16 ページ(6 部会× 2P+事務局 2P)

(2) コンセプト

- ・ 本県の歴史などに関する貴重な資料を紹介し、資料の持つ意義や歴史の魅力が伝わり、とともに、地域に伝え残された貴重な財産であることが理解できる内容とする。
- ・ 記述の内容は、高校日本史の教科書レベルを上限として、できるだけ専門用語を使わず、一般の方に分かりやすい記述を心がける。
- ・ また既に発刊している文化広報誌「とさぶし」よりは専門性が高く、調査活動での成果報告を行う。

(3) 主な掲載内容

成果報告として県史の調査活動で取り扱った史料(資料)の紹介

(4) 主な配布先

- ・ 県内図書館・資料館・博物館(こうちミュージアムネットワーク会員等)
- ・ 各市町村教育委員会、高校、大学
- ・ 歴史文化財課「文化財こうち」の配布先を参考に県外大学、公立博物館

等合計 3,000 部配布を予定

また、県内公立中学校・高等学校に配布されている 1 人 1 台タブレットの教育支援システム(高知家まなびばこ)のコンテンツに導入してもらうことを想定。

2. 題名事務局(案)

刊行物の題名について、委託業者から案の提出があった。提出があった中で、上記のコンセプト等を加味し、事務局で下記 3 つの候補に絞った。

【刊行物題名(案)】

- ① ときのあかし(時の証)
- ② 高知の歴史世界へようこそ
- ③ 新たな高知県史へのいざない

※③については当初からの案

（なお、題名に副題をつけることも考えているが、本協議では主題について決定し、副題は事務局で検討を考えている。）

上記３つの案について、本委員会にて意見等をいただいたうえで、刊行物の題名を決定することとしたい。

３．レイアウトについて

冊子レイアウト(案)については別添資料７－１、資料７－２のとおり。

また、各部会のマーク(案)についても現在、別添資料７－３のとおり。

近世

江戸時代後期は、庶民の生活水準が大きく変化した時期です。食が娯楽として楽しめる時代になり、お菓子は「高級品」から「日常的に楽しむもの」に代わりました。そんな19世紀初頭の土佐の暮らしを記した文献を紐解きます。



(写真説明) キャプションキャプションキャプションキャプションキャプションキャプションキャプション (45文字)



(写真説明) キャプションキャプションキャプション (25文字)



(写真説明) キャプションキャプションキャプション (25文字)

Topics

土佐の和菓子職人絵巻

県内有数の菓子処から
見つかった貴重資料

よだかは、実にみにくい鳥です。顔は、ところどころ、味噌みそをつけたようにまだらで、くちばしは、ひらたくて、耳までさけています。足は、まるでよぼよぼで、一間いっけんとも歩けません。ほかの鳥は、もう、よだかの顔を見ただけでも、いやになっってしまうという工合ぐあいでした。

たとえば、ひばりも、あまり美しい鳥ではありませんが、よだかよりは、ずっと上だと思っていましたので、夕方など、よだかにあうと、さもさいいやそうに、しんねりと目をつぶりながら、首をそっ方ばへ向(40文字)

県史にける思い

近世と呼ばれる安土桃山時代から江戸時代は、社会の変化が大きかった時期で、今につながる歴史の流れが良く見える面白さがあります。高知には山内家宝物資料館や高知城歴史博物館など、一般の方にも近世に触れてもらうことができる場所があります。庶民の生活を記した文献も多く残っていますので、身近に感じられる歴史を伝えていきたいと思います。

高知県立高知歴史資料博物館
日本近世史専任学芸員

山田 花子



とてもかわいらしい

土佐のお菓子の歴史

「生菓子図案集」には
当時のデザインが

よだかは、実にみにくい鳥です。顔は、ところどころ、味噌みそをつけたようにまだらで、くちばしは、ひらたくて、耳までさけています。足は、まるでよぼよぼで、一間いっけんとも歩けません。ほかの鳥は、もう、よだかの顔を見ただけでも、いやになっってしまうという工合ぐあいでした。

庶民のためにつくられた
和菓子の始まり

たとえば、ひばりも、あまり美しい鳥ではありませんが、よだかよりは、ずっと上だと思っていましたので、夕方など、よだかにあうと、さもさいいやそうに、しんねりと目をつぶりながら、首をそっ方ばへ向けるのでした。もつとちいさなおしやべりの鳥などは、いつでもよだかのまっこうから悪口をしました。

「へん。又また出て来たね。まあ、あのさまを。ほんとうに、鳥の仲間のつらよごしだよ。」ね、まあ、あのくちのおおきいことさ。きつと、かえるの親類か何かなんだよ。」こんな調子です。おお、よだかでないただのた

かならば、こんな生なまはんかのちいさい鳥は、もう名前を聞いただけでも、ぶるぶるふるえて、顔色を変えて、からだをちぢめて、木の葉のかげにでもかくれたでしょう。ところが夜だかは、ほんとうは鷹たかの兄弟でも親類でもありませんでした。

かえって、よだかは、あの美しいかわせみや、鳥の中の宝石のような蜂はちすずめの兄さんでした。蜂すずめは花の蜜みつをたべ、かわせみはお魚を食べ、夜だかは羽虫をとってたべるのでした。それによだかには、するどい爪つめもするどいくちばしもありませんでしたから、どんなに弱い鳥でも、よだかをこわがる筈はずはなかったのです。

既にあった!?
『ひがしやま』の原型

それなら、たかという名のついたことは不思議なようですが、これは、一つはよだかのはねが無暗むやみに強くて、風を切って翔かけるときのなどは、まるで鷹のように見えたことと、も一つはなき。こえがするどくて、やはりどこか鷹に似ていたためです。もちろん、鷹は、これをひじょうに気にかけて、いやがっていました。それですから、よだかの顔さえ見る(800文字)

考 古

江戸時代後期は、庶民の生活水準が大きく変化した時期です。食が娯楽として楽しめる時代になり、お菓子は「高級品」から「日常的に楽しむもの」に代わりました。そんな19世紀初頭の土佐の暮らしを記した文献を紐解きます。

とてもかわいらしい

土佐のお菓子の歴史

「生菓子図案集」には
当時のデザインが

よだかは、実にみにくい鳥です。顔は、ところどころ、味噌みそをつけたようにまだらで、くちばしは、ひらたくて、耳までさけています。足は、まるでよぼよぼで、一間いっけんとも歩けません。ほかの鳥は、もう、よだかの顔を見ただけでも、いやになってしまうという工合ぐあいでした。

庶民のためにつくられた
和菓子の始まり

たとえば、ひばりも、あまり美しい鳥ではありませんが、よだかよりは、ずつと上だと思っていましたので、夕方など、よだかにあうと、さもささいやそうに、しんねりと目をつぶりながら、首をそつ方ばへ向けるのです。



(写真説明) キャプションキャプションキャプション (25文字)

既にあつた!?
『ひがしやま』の原型

それなら、たかという名のついたことは不思議なようですが、これは、一つはよだかのはねが無暗むやみに強くて、風を切って翔かけるときなどは、まるで鷹のように見えたことと、も一つはなきごえがするどくて、やは(540文字)

県史 にかける思い

近世と呼ばれる安土桃山時代から江戸時代は、社会の変化が大きかった時期で、今につながる歴史の流れが良く見える面白さがあります。高知には山内家宝物資料館や高知城歴史博物館など、一般の方にも近世に触れてもらうことができる場所があります。庶民の生活を記した文献も多く残っていますので、身近に感じられる歴史を伝えていきたいと思っています。



高知県立高知歴史資料博物館
日本近世史専任学芸員

山田 太郎



とてもかわいらしい
土佐のお菓子の歴史

「生菓子図案集」には
当時のデザインが

庶民のためにつくられた
和菓子の始まり

よだかは、実にみにくい鳥です。顔は、ところどころ、味噌みそをつけたようにまだらで、くちばしは、ひらたくて、耳までさけています。足は、まるでよぼよぼで、一間いっけんとも歩けません。ほかの鳥は、もう、よだかの顔を見ただけでも、いやになってしまうという工合ぐあいでした。

たとえば、ひばりも、あまり美しい鳥ではありませんが、よだかよりは、ずつと上だと思っていましたので、夕方など、よだかにあうと、さもささいやそうに、しんねりと目をつぶりながら、首をそつ方ばへ向けるのです。

たとえば、ひばりも、あまり美しい鳥ではありませんが、よだかよりは、ずつと上だと思っていましたので、夕方など、よだかにあうと、さもささいやそうに、しんねりと目をつぶりながら、首をそつ方ばへ向けるのです。

既にあつた!?
『ひがしやま』の原型

それなら、たかという名のついたことは不思議なようですが、これは、一つはよだかのはねが無暗むやみに強くて、風を切って翔かけるときなどは、まるで鷹のように見えたことと、も一つはなきごえがするどくて、やは(540文字)

県史 にかける思い

近世と呼ばれる安土桃山時代から江戸時代は、社会の変化が大きかった時期で、今につながる歴史の流れが良く見える面白さがあります。高知には山内家宝物資料館や高知城歴史博物館など、一般の方にも近世に触れてもらうことができる場所があります。庶民の生活を記した文献も多く残っていますので、身近に感じられる歴史を伝えていきたいと思っています。



高知県立高知歴史資料博物館
日本近世史専任学芸員

山田 太郎



(写真説明) キャプションキャプションキャプション (25文字)

